

平成25年度第6回経営協議会議事要録

日 時：平成26年3月13日（木） 14:00～17:05

場 所：大会議室

出席者：谷口 功、山中 至、原田 信志、両角 光男、安部 眞一、倉田 裕、登田 龍彦、
村山 伸樹、竹屋 元裕、谷原 秀信、伊藤 晴夫、江口 吾朗、岡村 宏、
小栗 宏夫、船津 昭信、星子 邦子、吉丸 良治

欠席者：田川 憲生、遠山 敦子、村田 信一

陪 席：立石 和裕、野口 敏夫、伊原 博隆

議 事

1. 国立大学法人熊本大学職員給与規則等の一部改正及び国立大学法人熊本大学職員の早期退職募集に関する規則の新規制定について

議長から、医療技術職員で緊急業務対応のため予め計画的に待機を命ぜられた者へ支給する待機手当の新設、新たな教員人事制度である特命教授等の新設、平成25年度人事院勧告に基づく号給調整等に伴う、国立大学法人熊本大学職員給与規則、国立大学法人熊本大学職員の初任給、昇格、昇給等の基準、国立大学法人熊本大学職員給与支給細則、国立大学法人熊本大学職員退職手当規則、国立大学法人熊本大学有期雇用職員給与規則及び国立大学法人熊本大学任期満了手当規則の一部改正について、また、早期退職募集制度を新設することに伴う国立大学法人熊本大学職員の早期退職募集に関する規則の新規制定について審議願いたい旨提案があった。

次いで事務部から、資料1に基づき、概要について説明の後、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

（意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等）

- ◇ 早期退職募集制度とは、企業でいうと不況時のリストラのことと思われるが、大学においてもこのような制度を運用することになるのか。
- ◆ 国家公務員の早期退職募集制度の新設に伴い、本学においても同様の制度を新設するものである。今後、実情に応じて運用していく予定である。
- ◇ 教職員から本制度に則って辞職したいという申し出があった場合、本制度が適用されることになるのか。
- ◆ 運用としては、本規則の他に実施要項等を定め、一定の期間を定めて早期退職者を募集する予定である。あくまで募集に応じることで本制度が適用されることとなり、募集をしない限り、本制度は適用されない。

2. 平成26年度国立大学法人熊本大学年度計画について

議長から、平成26年度国立大学法人熊本大学年度計画について審議願いたい旨提案があった。次いで安部理事から、資料2-1～2-3に基づき、平成26年度の主な年度計画の概要等につ

いて説明の後、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、議長から、本件については、3月27日開催の教育研究評議会及び役員会の議を経て、文部科学省に提出することになるが、文言等の軽微な修正については一任願いたい旨付言があった。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 他大学では、授業力を高めていくといった取組、具体的には海外の大学と相互にサマープログラムを開催し、夏季休業期間中を使って海外の大学との交流を強化しているようだ。熊本大学においても、そのような取組が必要なのではないか。
- ◆ 本学においても教育の国際化に重点を置いて、教育改革を実施している。国際化において学期制をどのようにするのかという点は、解決しなければならない課題であり、現在検討しているところである。また、教員の教育力・授業力については、研修会等を開催し、強化していきたいと考えている。
- ◇ 日本の大学は研究至上主義に陥っているところがある。教員の教育力強化は非常に重要である。
- ◆ 教員の教育力・授業力の強化については、これからの大学において非常に重要であることを承知して対応していきたい。本学は、研究大学として認められており、その責務を果たしながら、その成果をと考えている。

3. 平成26年度予算及び配分方針について

議長から、平成26年度予算編成の基本方針に基づき作成した平成26年度予算及び配分方針について審議願いたい旨提案があった。

次いで事務部から、資料3-1～3-3に基づき、内容について説明の後、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 年度計画を実現するには予算的な裏付けがないと実現できないのではないかと。研究を重視しようというのであれば、全体における研究費の比率を変えるというようなことが運営上できるはずではないか。新学部設置、年俸制導入等の予算措置はあるのか。新しい取組について、予算措置がないと何も変わらないのではないかと。
- ◆ 基本的な予算構成は変わっていないが、平成26年度は学長裁量経費を1億円ほど増額した。研究面の予算は、本予算の他に様々な資金がある。年俸制導入に伴う予算については、国の予算に組み込まれており、それを獲得することになる。よって、平成26年度の計画は、本学の基本的な予算構成を大幅な変更はせず実現できる予定である。
- ◇ 中期計画は非常に抽象的な表現であり、これを基に予算を積算することは不可能ではなかろうか。実施したいことに対して予算を組むということにはならないのではないかと。
- ◇ 自己収入の50%は病院収入である。年度計画においても、病院の計画をもう少し押し出すべきと思われる。
- ◆ 今回提示している予算は、運営費交付金と病院収入等の自己収入に関して提示している。今後、獲得を目指す外部資金等については提示していない。
- ◇ 外部資金が大学運営に影響しないのであれば、本会で議論する必要はないが、影響があるのであれば、なぜここに提示しないのか。
- ◆ 本会においては、運営費交付金を中心とした予算について議論している。外部資金については、

それぞれのプロジェクトで収支が成り立つ部分もあり、個々に各省庁等に提示している。

予算の全体像が把握できないということにおいて、理解できないところがあることは承知している。

- ◆ 支出予算上の研究経費は、教授、准教授等一人当たりの単価に人数を乗じて積算しているだけである。教育経費についても学生数等に応じて積算している。新しい取組等、重視したい場合に予算措置できる部分は学長裁量経費だけであり、実施したいことに対して予算を組むという企業の方法を大学に適用することはほぼ不可能である。新学部設置、年俸制導入等については、本学予算では実現できず、国から特別に予算措置されて初めて実施できることとなる。
- ◇ 教員数や学生数で自動的に予算が決定するのであれば、本会において議論する必要はないのではないか。
- ◆ 研究経費でいうと、文系と理系の単価を見直した方がいいのではないかという議論をしているが、指摘のとおり、全体予算については、議論する余地はほとんどない。
- ◆ 附属病院は自己収入があるため、比較的、企業に近い感覚で動いている部分もある。事業収入を経営的に改善させることにより、病院の環境改善や診療体制の安全の構築につなげている。
- ◆ 文部科学省から、通常予算とは別に学長裁量経費を措置される予定である。少しずつではあるが、予算措置について変わってきている部分がある。

報告連絡

1. 寄附講座の設置期間更新について

議長から、資料4に基づき、次のとおり寄附講座の設置期間を更新することとなった旨報告があった。

- ・大学院生命科学研究部「画像診断解析学寄附講座」
設置期間：平成26年4月1日～平成31年3月31日（5年間）
寄附者：株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
- ・医学部附属病院「循環器臨床研究先端医療寄附講座」
設置期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）
寄附者：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 外4社
- ・医学部附属病院「地域専門医療推進学寄附講座」
設置期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）
寄附者：熊本県
- ・医学部附属病院「重症心身障がい学寄附講座」
設置期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）
寄附者：熊本県
- ・医学部附属病院「脳卒中・急性冠症候群医療連携寄附講座」
設置期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）
寄附者：熊本県

2. 共同研究講座の設置について

議長から、資料5に基づき、東芝メディカルシステムズ株式会社との共同研究契約の締結に伴い、大学院生命科学研究部から共同研究講座の設置申請があったことを受け、画像動態応用医学共同研

究講座を平成26年4月から5年間設置することとした旨報告があった。

3. 国立大学法人熊本大学建設工事等入札監視委員会設置要項について

倉田理事から、資料6に基づき、第三者機関等を活用することにより、本学が発注する建設工事等の入札並びに契約の透明性を確保するため国立大学法人熊本大学建設工事等入札監視委員会設置要項を整備した旨報告があった。

意見交換

1. 社会貢献の推進 ～地域と連携して進める様々な取組について～

2. 国際化の推進 ～大学の国際化推進とグローバルな人材交流の促進～

議長から、本学は「熊本大学アクションプラン2010」の課題の一つとして、国際化を推進するための様々な取組を行っており、そのためには、知的国際交流を積極的に推進するとともに、留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手を育成することが重要だと考えているため、種々の国際化推進の取組を説明した後「国際化」について、また、前回からの継続事項である「社会貢献」について、それぞれ意見交換を行いたい旨提案があった。

次いで原田理事から、資料7に基づき、社会貢献に関する①地域社会との組織的な連携の強化、②地域社会の課題解決への貢献、③大学の生涯学習機能の強化、④産学連携・産業振興への貢献について、引き続き伊原副学長から、資料8に基づき、国際化に関する①教育の国際的通用性の向上、②研究者交流、③国際交流、④地域連携、⑤環境整備、⑥国際関連助成・奨学金事業について、それぞれ説明があり、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 地域の活動及び熊本の国際交流に、熊本大学の教職員が参加することが、活動の大きな広がりにつながっていると思われる。今後も積極的な参加をお願いしたい。
- ◆ 熊本を世界に繋ぐという役割も掲げて、様々な取組を実施していきたい。
- ◇ 教職員が海外へ研修等に行く割合が非常に高いことに感心した。また、欧米、アフリカ諸国からの熊本大学への表敬訪問が増加しているが、何に一番関心を持って来られるのか。
- ◆ 目的は様々であるが、アジア圏、特に発展途上国といわれているところは、医療や保健といった福祉面、工学や産業に関する新しい技術、環境や熊本の水資源等に関する環境技術、そして日本文化といったことを中心に訪問されている印象である。欧米の中では、大学ビジネスという観点からの訪問も多いようだ。
- ◇ 非常に様々な取組をされていることに驚いた。大学の教員が地域に出て行くことは、地域の活性化にとって大変ありがたいことである。
- ◇ 地域貢献度ランキングというのは、どのような指標で決められているのか。
- ◆ 組織、制度、ボランティア等の項目についてのアンケートに回答するのだが、ランキングを作成している会社が何を中心に評価をするのか、年によって異なるため、評価結果も変わってくる。
- ◇ 学生が海外に行くことも大切であるが、グローバル化に即した教育、横断的な教育という観点から、熊本大学の学生を対象としたサマースクールというものも考えられないだろうか。
- ◆ 国内で実施されているものに派遣しているが、本学で実施するという点についても、今後検討していきたい。

- ◇ 熊本大学出身という母校愛を持った留学生を作るには学部の留学生増加が必要ではないか。また、発展途上国の学生に母国の近代化に直接寄与できるような学問分野を大学側が用意する必要があると思われる。留学生宿舎の問題だが、県や市と大学による共同での学生会館設置を大学から提案してみてはどうか。
- ◆ 共同での学生会館設置を検討していたが承認されなかった。民間のアパートを借りる体制作りを現在検討しているところである。
- ◇ 熊本大学医学部附属病院に一般市民は何を望んでいるかを地道に調査し、把握する必要があるのではないか。また、年度計画において、地域貢献の部分に附属病院の計画を掲載した方がよいのではないか。
- ◆ 年度計画の記載方法の問題だが、附属病院に関しては、附属病院の項目に記載することになっている。本学は僻地の医師数の確保等にも尽力しているところであり、そのような活動を地域貢献の部分に掲載することも考えていきたい。
- ◇ 国際化について、熊本大学がグローバルな視点から何を推進しようとしているのかを表現すべきと思われる。
- ◆ 地域貢献や国際化に対する熊本大学の哲学を明確化する必要がある。様々な活動に忙殺され、大学の使命である教育研究が疎かになるようなことになってはならないと考えている。
- ◇ 附属病院の存在そのものが地域貢献と考えている。また、学生の地域貢献として、地域貢献活動の単位化や、カリキュラムの中に組み込むことも一つの方法ではないかと思われる。また、地域社会に大学からテーマを提供することによって地域貢献活動を促進することも考えられるのではないか。
- ◆ 学生の地域貢献活動への参加については、積極的に推進していきたいと考えている。

以 上

○ 次回開催：平成26年6月12日（木）13時30分から

<配布資料>

- 資料1 就業規則関係規則の改正・新規制定一覧（予定） ほか
- 資料2-1 平成26年度国立大学法人熊本大学年度計画（案）
- 資料2-2 中期目標達成に向けた平成26年度の主な年度計画（概要）
- 資料2-3 中期目標達成に向けた工程表
- 資料3-1 平成26年度熊本大学予算（案）の構成
- 資料3-2 平成26年度熊本大学収入支出予算（案）
- 資料3-3 平成26年度予算配分の方針（案）
- 資料4 寄附講座の設置期間更新について
- 資料5 共同研究講座の設置について
- 資料6 国立大学法人熊本大学建設工事等入札監視委員会設置要項
- 資料7 社会貢献の推進 ～地域と連携して進める様々な取組について～
- 資料8 国際化の推進 ～大学の国際化推進とグローバルな人材交流の促進～